



経営は所得確保を注視すべき！

規模拡大によって、面積を増大して売上を上げれば、経営効率は上がり所得は増えるのではないかと思いがちですが実際はどうなのでしょう。必ずしも規模拡大に比例して、出荷量が増え所得が向上するとは言えないのが現状です。

○規模拡大の経済効果(スケールメリット)

- 1.生産規模の拡大に伴ってコストが下がり、効率が上昇する。
- 2.一定規模までの拡大は所得率が高くなる。

○農業経営手法によるスケールメリットの限界がある。(デメリット)

- 1.農家の経営能力や資源が、経営規模の拡大に(資本の集中)に追いついていない場合は**所得(手取り)が増えない。**

●経営規模が拡大すれば、経営手法や考え方を変えていく必要がある。

- ・新たな雇用の拡大に伴う労働分配や労務費の上昇。
- ・圃場の分散や作付品種の多様化が招く作業ロス。(非合理的な作業)
- ・設備投資の拡大による費用の上昇。(財務圧迫、償却資産の上昇)

単位：千円	農家A	農家B
収入金額計	18,121	15,634
雇人費	1,540	1,240
減価償却費	5,500	3,965
諸材料費	1,305	593
動力光熱費	1,403	823
荷造運賃手数料	2,442	1,826
その他経費	148	340
費用合計	12,338	8,787
所得(差引計)	5,783	6,847
所得率	31.9%	43.8%

上記の2つの農家の経営内容を比べてみます。

どちらの経営がよいのでしょうか？

収入金額では農家Aが大きくなっています。

所得(所得率)を比較すると農家Bが大きくなっています。

収益と費用のバランスをみながら経営していくことが必要となります。

TACではZ-BFM(営農計画策定支援システム)を活用した経営改善策の検討や作目の導入効果(評価)、営農計画案の策定を支援して行きます。

今後は担い手推進課(TAC)が巡回等でご相談に対応します。